

## 日本実験動物学会としてカニクイザル等の実勢調査・人材育成の検討

研究分担者：三好 一郎・東北大学教授

研究協力者：塩谷 恭子・国立循環器病センター研究所

### 研究要旨

非ヒト霊長類を用いた研究の遂行には、専門的な知識に裏付けられた適切な飼育並びに研究者による適正かつ安全な実験の実施を支援する実験動物技術者等が不可欠である。アンケート調査等により、非ヒト霊長類の飼育、繁殖、研究等を行っているアカデミア、民間企業等における実験動物技術者等の確保に関する現状を把握し、日本実験動物学会として行うべき対応を検討した。

調査の結果、非ヒト霊長類を取り扱える実験動物技術者等が減少や不足している状況にあること、また新たに実験動物技術者等を育成する場合、時間を要すること、高度なレベルの技術者からの指導が必要であること等が課題とされていることがわかった。

今後の非ヒト霊長類を取り扱う実験動物技術者等の育成に際しては、熟練した技術者からの伝承が困難な場合や経験の浅い者が他の業務と兼ねて非ヒト霊長類を取り扱う場合も考慮し、体系だった教育等のプログラムの作成が有効と考えられた。また、本調査により、医薬基盤・健康・栄養研究所等、実験動物技術者等の育成に取り組んでいる機関が存在することも判明した。

今後の非ヒト霊長類を取り扱う実験動物技術者等の確保のため、日本実験動物学会には、実験動物技術者の育成に関する取り組みを行っている機関のノウハウを参考にし関連学協会等の協力も得ながら、アカデミア、企業において活用可能な教育等プログラムの構築が求められる。

### A. 研究目的

非ヒト霊長類の飼育・繁殖などの飼育管理等、あるいは、実験等を支援する実験動物技術者等の現状と今後を考察することにより今後の非ヒト霊長類の研究発展を担保する。

### B. 研究方法

非ヒト霊長類の研究、飼育、繁殖、輸入、販売等を実施しているアカデミア及び企業（安全性試験受託試験機関（以下、CRO）及び製薬企業）に対するアンケート及びヒアリング調査を行い、結果を解析した。

アンケート及びヒアリング調査において、非ヒ

ト霊長類の繁殖、研究の実績が特に豊富であったアカデミア 3 機関を対象に、実験動物技術者等の育成のために行われている取り組みについても情報収集を行った。

### C. 研究結果

アカデミアでは、現在非ヒト霊長類を研究に利用している又は今後利用する予定があると回答した 35 機関のうち 31 機関で飼育支援者が、25 機関で技術支援者が雇用されていた。飼育支援者・技術支援者の雇用の有無に関わらず、今後は、7～8割前後の機関が現状維持の方針であることがわかった。

CRO では、現在非ヒト霊長類を研究に利用している又は今後利用する予定があると回答した 8 機関のうち 6 機関で飼育支援者が、5 機関で技術支援者が雇用されていた。これらの機関における今後の飼育支援者・技術支援者確保のための対策として、飼育支援者を雇用する機関のうち 3 機関と技術支援者を雇用する機関のうち 4 機関が、増員もしくは新規採用を計画していた。

非ヒト霊長類を用いた実験を「自社施設内で実施」と回答した製薬企業のうち 10 機関で飼育支援者及び 8 機関で技術支援者がおり各々 8 機関並びに 6 機関が今後の雇用としては現状維持を計画していた。現状維持や増員は、高齢化に伴う対応と考えられ、定期的に一定数以上の人員補充が必要になることから、その確保は重要である。

獣医学的管理担当者の雇用については、CRO と製薬企業には「いない」の回答はなかったが、現在非ヒト霊長類を研究に利用している又は今後利用する予定があるアカデミアでは 35 機関のうち 3 機関が該当した。

アカデミア、CRO、製薬企業の回答において、一般的に非ヒト霊長類を対象とする実験動物技術者等の高齢化が認められた。非ヒト霊長類の次世代担当者実験技術者の育成に関しては、総ての CRO、並びに約半数のアカデミアや製薬企業が課題の存在を指摘し、「将来的に必要となる人員数や技術レベルが読めず、適切な育成が難しい」、具体的な問題点として、「サルを取り扱える人材が年々不足傾向にあると共に、教育には時間を要する」「サル類の実験技術習得には高度なレベルの技術者からの長期の指導が必要である」「技術の継承、若手不足、サル高騰による練習機会の減少」と回答した。

非ヒト霊長類を用いた研究を実施するアカデミア 3 機関において、研究者・それをサポートする実験動物技術者等の育成のために講習等の取り組みが行われている。

#### アカデミア 3 機関において動物実験技術者等の育成のために行われている取り組み

##### 1) 医薬基盤・健康・栄養研究所

医薬基盤・健康・栄養研究所（以下、医薬健栄研という）は、教育機関ではないものの、学位取得をめざす大学生を実習生として受け入れている。また、希望があれば、外部の者でも教育訓練、技術指導の対象となる。期間（数日、数週間、数か月、数年）に応じて異なる内容のプログラムが実

施されている。研究所内外の利用者には所属によらず講習会を実施しており、3 年間を有効期間とし受講証を発行している。（今年度のプログラムの（案内）は 36-37 ページに掲載。）

また、毎年、外部研究者、一般を対象として「霊長類医科学フォーラム」を開催しており、その中で所内研究の成果報告やそのときのトピックを取り上げている（38 ページに昨年のポスターを掲載）。一般の方を対象とした市民公開講座を行う年もある。

高校生、大学生等の見学者への対応として、将来の方向性を検討するときに参考になるように「動物実験とは」、「なぜサルなのか」、「サルで何をやっているのか」、といった内容を説明し、非ヒト霊長類を使った動物実験の意義について理解の助長を推進している。（39 ページに見学申込書を掲載。）

令和6年3月29日

講習会受講対象者 各位

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所  
霊長類医科学研究センター

2024年度 国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所霊長類医科学研究センター  
第1回～第4回 各種講習会及び共同利用施設オリエンテーション開催について

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所霊長類医科学研究センター各種講習会及び共同利用施設オリエンテーションを下記のとおり開催いたします。

※今回の講習会は第1回を所内関係者のみとし、  
第2回～第4回を外部の協力研究員、共同施設利用者等といたします。  
ご注意ください。

記

日 程 : 第1回 令和6年4月8日(月曜日) 13:00～16:25 所内関係者のみ  
第2回 令和6年4月26日(金曜日) 13:00～16:25  
第3回 令和6年5月16日(木曜日) 13:00～16:25  
第4回 令和6年6月4日(火曜日) 13:00～16:25

場 所 : 霊長類医科学研究センター 共同利用施設管理棟セミナー室

【プログラム】

- 1) 13:00～13:30 共同利用施設オリエンテーション  
<休憩>
- 2) 13:35～14:05 動物実験講習会
- 3) 14:05～14:20 動物倫理・実験動物管理運営講習会
- 4) 14:20～14:35 化学物質取扱講習  
<休憩>
- 5) 14:45～15:15 組換えDNA実験講習会
- 6) 15:15～15:55 バイオセーフティ講習会
- 7) 15:55～16:25 バイオセーフティ講習会(第8棟 感染症実験施設利用者)

**【申し込み方法】**

受講希望者は、申込用紙に受講する講習会选择んで、氏名、E-mailアドレス、所属、責任者または主任研究者名及び受講希望日を記入し、メールにて下記連絡先へお申込みください。

その際、申込用紙は研究室、組織ごとにまとめて下さい。

なお、受講人数を調整させていただく場合がございますので、受講希望日は第3希望まで記入していただきますようお願いいたします。

**所内関係者申し込み締め切り：4月2日(火)**

**外部の協力研究員、共同利用施設利用者等の申し込み締め切り：4月16日(火)**

お問い合わせ、ご不明な点等ありましたら、下記連絡先をお願いします。

連絡先

〒305-0843 茨城県つくば市八幡台1-1

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所

霊長類医科学研究センター

筑波総務課・共同利用施設

電話029(837)2121(代表)

E-mail:co-op-tprc@nibiohn.go.jp

# 第19回 霊長類医科学フォーラム 先端医科学研究の現状

参加費  
無料

令和5年

11月17日[金]

- 開催時間 / 10:00～16:40
- 開催場所 / 文部科学省研究交流センター  
(茨城県つくば市竹園 2-20-5)
- 当日参加申込み OK

参加申込み および 詳細は

<https://tprc.nibiohn.go.jp/info/394/>



フォーラム終了後、意見交換会(有料)を開催します。

## 開会 [10:00～10:20]

開会挨拶

中村 祐輔 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所・理事長)

霊長類医科学研究センター創立45周年記念挨拶

伯野 春彦 先生 (厚生労働省大臣官房厚生科学課・課長)

## 感染症研究 [10:20～12:05]

座長 浦野 恵美子 (霊長類医科学研究センター・主任研究員)

齊藤 暁 先生 (宮崎大学 農学部獣医学科・准教授)

ACE2デコイを用いたCOVID-19治療薬開発

岡本 宗裕 先生 (京都大学 ヒト行動進化研究センター・教授)

ヒトの寄生虫とサルの寄生虫 -共進化と宿主転換-

野村 暢彦 先生 (筑波大学 生命環境系・教授)

微生物サステナビリティ研究センター・センター長)

微生物も群れて会話しながら、動物・植物とかがわっている

## 昼食・企業展示 [12:05～13:15]

## 特別講演 [13:15～14:15]

座長 保富 康宏 (霊長類医科学研究センター・センター長)

Dr. Daniel L. Barber

(Senior Investigator, T Lymphocyte Biology Section, Laboratory of Parasitic Diseases  
National Institute of Allergy and Infectious Diseases, National Institutes of Health)

Role of IFN $\gamma$  in control of *M. tuberculosis* infection of  
rhesus macaques

## ポスターセッション・企業展示 [14:15～14:45]

## トピックス 2023 [14:45～16:30]

座長 岡村 智崇 (霊長類医科学研究センター・主任研究員)

清谷 一馬 先生 (医薬基盤・健康・栄養研究所 難病・免疫ゲノム研究プロジェクト・  
プロジェクトリーダー)

がんの遺伝子変異を標的とした免疫療法の開発

小野 道之 先生 (筑波大学 生命環境系 つくば機能植物イノベーション研究センター・准教授)

植物を用いた食べるワクチンの開発

高村 史記 先生 (理化学研究所 生命医科学研究センター 免疫記憶研究チーム・チームリーダー)

末梢組織、腫瘍における  
滞在型メモリーCD8T細胞分化機構

## 閉会 [16:30～16:40]

閉会挨拶 保富 康宏 (霊長類医科学研究センター・センター長)

主催：国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 霊長類医科学研究センター  
後援：厚生労働省、文部科学省、農林水産省 協賛：国立感染症研究所、JST 共創の場「つくばデジタルバイオ国際拠点」

## 施設見学申込書

1. 日時	
2. 目的	
3. 所属・氏名 (代表者及び人員数)	
4. 連絡先 (住所・氏名・Tel など)	
5. その他 (要望・連絡事項等)	

上記のとおり貴センターを見学したく申し込みいたします。

令和 年 月 日

国立研究開発法人  
医薬基盤・健康・栄養研究所  
霊長類医科学研究センター長 殿

申込者  
所属・氏名

## 2) 京都大学ヒト行動進化研究センター

京都大学ヒト行動進化研究センターでは、犬山キャンパス内で非ヒト霊長類を用いた実験を実施する人全員を対象に、実験の内容（観察のみ・行動実験等まで・外科的手術等を含む）により3段階に分けてライセンス講習・実習を実施している。有効期間は3年間で、失効するタイミングで再受講

が義務付けられている。

申し込み等があれば、可能な範囲で外部からの研修も可能で、タイ王国の国立霊長類センターの設立に協力した実績等がある。また、NBRP ニホンザルにおいて、提供されたサルを用いる方全員に講習を実施している（40ページに掲載）。

2024年1月〇日

オンライン講習会 受講者各位

お世話になっております。ナショナルバイオリソースプロジェクト(NBRP)「ニホンザル」事務局です。平素より研究用ニホンザル提供事業にご理解、ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

2024年2月〇日（火曜日）午後1時より、「サルの取り扱いと関連法規の講習会（第36回）」をオンライン（Zoom）形式で開催致します。

記

### NBRP「ニホンザル」サルの取り扱いと関連法規についての講習会（第35回）

開催日時：2024年2月〇日（火曜日）13:00～15:30（予定）

オンライン（Zoom）形式での開催となります。プログラムの詳細は事務局よりメールにて連絡致します。

#### 受講に際してのお願い

1. 録音、録画、画面のキャプチャ保存、SNSなどで共有、公開する等の行為は固くお断りいたします
2. 講習中はビデオをON、音声はOFFにしてください
3. 受講確認をスムーズに行うためZoomにサインインする表示名は「Z01 犬山太郎 京大ヒト研」のように「受講者識別 ID 氏名 所属機関（略称可）」としてください。事務局で表示名を確認後、待機室から会議室にご案内いたします。（表示名変更方法は、次ページをご参照ください）
4. 開始1時間前から受付いたします。本人確認に時間がかかる可能性、Zoomが正常に作動しないなどのマシントラブルなどがあるかもしれませんので、お時間に余裕を持って待機室にお入りください。
5. 可能な限り周囲に人のいない状態で、端末1台あたりお一人での受講をお願いします。

#### プログラム

開会挨拶

1. NBRP「ニホンザル」の概要（約20分） 稲瀬正彦（運営委員長・近畿大学）
2. サル取り扱い上の注意（日常管理編 約80分） 上野博史（京都大学ヒト行動進化研究センター）
3. 動物実験関連法規（約20分） 中村克樹（京都大学ヒト行動進化研究センター）
4. 募集要項と申請、提供の注意事項の説明（約20分） 東濃篤徳（京都大学ヒト行動進化研究センター）

閉会挨拶

\* 当日の状況により、プログラムに変更が生じる場合がございます。

講習会に関する質問等はNBRPニホンザル事務局 [nbrp-nihonzaru@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp](mailto:nbrp-nihonzaru@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp) まで、メールにてお願い致します。

### 3) 滋賀医科大学 動物生命科学研究センター

学内・外を問わず、動物実験を行う予定の教職員、大学院生及び研究者を対象に、テキストを配布し実験動物学概論、動物実験の倫理と動物福祉、動物生命科学研究センターの利用方法等について概説、教育訓練を実施している。理解度確認のための資格認定試験を実施し合格者に、「動物実験(基礎)」の認定証を授与するとともに、動物実験(マウス、ラットからイヌ、ブタまで)の実施と、動物実験計画書の作成・提出が許可される。非ヒト霊長類を用いる実験を行う場合は、「基礎」の資格を取得した後、さらに別途実施する非ヒト霊長類に関する動物実験認定用の教育訓練、並びに3段階に及ぶ実習及び認定試験が行われ、合格者に「動物実験(サル)」認定証を授与するとともに、非ヒト霊長類を用いる動物実験の実施と動物実験計画書の作成・提出が許可される(43-45 ページに案内を掲載)。

### 4) カニクイザルに特化した実験動物手技及び生殖工学技術研修会

滋賀医科大学動物生命科学研究センター  
(46-47 ページに案内を掲載)

## D. 考察

アンケート調査等の結果、アカデミア及び企業からは、非ヒト霊長類を取り扱える実験動物技術者等が減少や不足している状

況にあること、また新たに実験動物技術者等を育成する場合、時間を要すること、高度なレベルの技術者からの指導が必要であること等の意見が挙げられた。

非ヒト霊長類を用いる研究は、他の動物種を用いる動物実験に比較して、行われる機会が少ない。そのため、実験動物技術者としての育成に資するOJTの機会は限られている。また、非ヒト霊長類を取り扱う場合、研究環境は、倫理的・法的・社会的課題(Ethical, Legal and Social Issues)の観点からも他の動物とは異なる知識と経験が必要とされる。

非ヒト霊長類を取り扱う技術の継承機会は更に減少していく可能性もあると推測される。医療技術・医薬品開発や基礎医学研究において非ヒト霊長類を今後も利用するためには、アカデミア、企業における実験動物技術者の確保に関し、検討することが必要である。

また、アンケートの結果からは、人員の不足等により、非ヒト霊長類を取り扱う技術者は、専任ではなく他の動物種に関する業務などを兼務している場合があることも伺えた。

実験動物技術者等の育成に関しては、医薬健栄研等3機関において、非ヒト霊長類を取り扱うための教育研修・訓練等のプログラムが作成され、また機関の外部に対しても参加機会が提供されていることもわかった。

今後の非ヒト霊長類を取り扱う実験動物技術者等の確保に関しては、高度なレベルの技術者が近くにいない場合や経験の浅い者が他の業務と兼ねて非ヒト霊長類を取り

扱う場合も考慮し、体系だった教育等のプログラムの作成が有効であると考えられる。

日本実験動物学会としては、3 機関において行われている取り組みを広く関係者に情報提供することが必要である。また、アカデミア及び企業が幅広く参加する特性を生かし、会員からのさらなる情報収集を進め、非ヒト霊長類を取り扱う実験動物技術者等の育成に資する人材育成・教育プログラムの構築を行うことが求められる。

#### **E. 結論**

今後の非ヒト霊長類を取り扱う実験動物技術者の確保のため、日本実験動物学会には、実験動物技術者の育成に関する取り組みを行っている機関のノウハウを参考にし関連学協会との連携を図りながら、アカデ

ミア、企業において活用可能な教育等プログラムの構築が求められる。

#### **F. 健康危険情報**

特になし。

#### **G. 研究発表**

1. 論文発表
  2. 学会発表
- 該当なし

#### **H. 知的財産権の出願・登録状況**

(予定を含む。)

1. 特許取得
  2. 実用新案登録
  3. その他
- 該当なし

## 初めて動物生命科学研究センターを利用される方へ

滋賀医科大学（以下本学）で動物実験を行おうとする研究者等は本学学長が認定する動物実験認定資格が必要である。

本学では、動物実験における科学的合理性、動物愛護への配慮、環境の保全及び教職員・学生等の安全確保の観点から平成19年5月に「滋賀医科大学動物実験規程」を制定した。すなわち、動物実験等の実施に当たっては、動物愛護法及び飼養保管基準に即し、動物実験等の原則である代替法の利用、使用数の削減及び苦痛の軽減の3R(Replacement, Reduction, Refinement)に基づき、適正な動物実験を実施しなければならず、そのために教育訓練を実施することとした。この教育訓練の中に、動物に対する生命倫理観を備えもち、国際的に通用する動物実験が行える研究者を養成することを目的として平成16年から実施している「動物実験認定制度」を取り入れている。

この教育訓練は、動物実験を行う予定（学内・外を問わない）の教職員、大学院生及び研究者を対象に、テキストを配布し実験動物学概論、動物実験の倫理と動物福祉、動物生命科学研究センターの利用方法等について概説する。その後、理解度確認のための資格認定試験を実施し70%以上の正答を得た者を合格者とし、「動物実験（基礎）」の認定証を授与し、本学での動物実験（マウス、ラットからイヌ、ブタまで）の実施が可能となり、動物実験計画書の作成・提出を許可する。

さらにヒトに最も近縁な実験動物であるサル類を用いる実験を行う場合は、「基礎」の資格を取得した者を対象に、その後別途実施するサル類に関する動物実験認定用の教育訓練に加え、実習（Aコース：30日間、Bコース：10日間、Cコース：3日間）および認定試験を実施し80%以上の正答により「動物実験（サル）」認定証を授与する。これによって、本学でのサルを用いる動物実験の実施が可能となり、動物実験計画書の作成・提出を許可する。

この他に感染性の病原体等を取り扱う動物実験の実施を希望する研究者等は、「基礎」の資格を取得した者を対象に、その後別途、動物実験認定用の「動物実験（感染）」の教育訓練と試験において70%以上の正答を得、さらにバイオセーフティ委員会および遺伝子組換え実験安全委員会の病原体等取扱い講習会の受講を完了した者に対して、「動物実験（感染）」認定証を授与する。これにより、感染実験の実施が可能となり、動物実験計画書の作成・提出を許可する。

本学において動物実験を実施しようとする研究者等はそれぞれの実験目的・実験内容に沿って必ずこれらの資格を取得する必要がある、その資格を有しない者はいかなる理由によっても動物を用いた実験を行うことが出来ない。

本学がより良い教育・研究体制を推進し活発な研究活動を継続するためには、一般の方そして地域住民方々の理解は不可欠であり、本学の動物実験認定制度により動物実験における動物福祉、動物の生命倫理、動物実験の倫理に深く配慮し、動物実験の透明性と正確な実験の実施・報告に対する責任と責務への認識を新たにするためにも、本学の動物実験認定制度を理解されることを願います。

滋賀医科大学 動物実験委員会  
滋賀医科大学 動物生命科学研究センター

動物生命科学研究センターご利用手順（一時的な立ち入り以外）

動物実験に関する教育訓練受講と動物実験資格認定試験に合格



「動物生命科学研究センター登録申請書」にて登録許可を受ける

## <動物実験に関する教育訓練と資格認定試験>

動物実験に関する教育訓練「動物実験：基礎」取得・・・①



感染実験をする場合：「動物実験：感染」取得・・・A

サル類を用いる実験をする場合：「動物実験：サル」取得・・・B

### 受講手続き

- 1) 「教育訓練受講申込書」に入力（センター事務室へメールで送付）
- 2) センターより受講資料等を送付
- 3) 動画視聴の上、テキストを参照し各自で資格試験を実施
- 4) 解答と試験問題をセンター事務室へ返送
- 5) 採点后、合格者には1週間程度で「動物実験資格認定証」の発行（不合格の場合のみ連絡あり）

※ 新型コロナウイルス拡大リスク低減のため、現在は講習会の開催を休止し、各自受講となっている。

### ①<基礎（感染・サル類以外の実験をする場合）>

「教育訓練（基礎）」受講と試験

※教育訓練（基礎）受講費用：2,200円（テキスト、試験含む）

支払い方法： 学内者は所属部署予算にて後日振替。

学外者は銀行振込、現金払い（現金払いのみ領収書発行可）

### A<感染実験をする場合>

「基礎」の資格取得後、

- ・ 「教育訓練（感染）」受講と試験
- ・ 「病原体等取扱い講習会」（バイオセーフティ委員会および遺伝子組換え実験安全委員会）受講

※教育訓練（感染）受講費用：2,200円（テキスト、試験含む）

支払い方法： 学内者は所属部署予算にて後日振替。

学外者は銀行振込、現金払い（現金払いのみ領収書発行可）

## B<サル類を用いる実験をする場合>

「基礎」の資格取得後、

- ・「教育訓練（サル）」受講と試験
- ・（試験合格後）実習（3コース）
  - Cコース： センター職員等に従い実験補助等可能・・・（ガイダンス1回+実習2回）
  - Bコース： センター職員等と共同で実験可能・・・（実習10回）
  - Aコース： センター職員等と同等にサルを使用した実験可能・・・（実習30回）

※実習1回約2時間、午前9時30分～または午後1時30分～

「動物（サル）取扱い実習依頼」を提出し、センター事務室と実習日の調整

※教育訓練（サル）受講費用：2,200円（テキスト、試験、実習含む）

支払い方法： 学内者は所属部署予算にて後日振替。

学外者は銀行振込、現金払い（現金払いのみ領収書発行可）

## <動物生命科学研究センター登録申請（入館申請）>

「動物生命科学研究センター登録申請書」をセンター事務室へ提出

※ 利用出入口：基礎は旧棟1階玄関のみ可

所属長の押印要

→ 登録申請者へ登録許可書を発行（入館登録）後、職員証・学生証等での入館が可能

※ 磁気がとばないようにカードの取扱いに注意をする

※大学に身分のない研究者等の入館については、有料の専用ICカード発行（セコム）も可能であり、要相談（「専用ICカード登録申込書（学内者用・学外者用）」にて申請）

## <お問い合わせについて>

★ 教育訓練受講、見学等に関するお問い合わせは、下記、動物生命科学研究センター事務室へメールにてお問い合わせください。

〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

国立大学法人滋賀医科大学 動物生命科学研究センター

電話：077-548-2332

Mail：hqanimal@belle.shiga-med.ac.jp

受講者各位

滋賀医科大学動物生命科学研究センター  
研究支援グループ

## 第2回カニクイザルに特化した実験動物手技及び生殖工学技術研修会のご案内

滋賀医科大学動物生命科学研究センターは繁殖・飼養されるカニクイザルを用いて医科学研究を実施すること、サルを用いた動物実験に携わる業務に従事出来る者は学内研究者に限られてはならず、所定の条件が整えば所属（他大学、研究機関、民間企業等）を問わず利用が可能となっています。また、当センターが実施している「技能研修」では参加者に対しては技術の習得に限らず、3Rの理念を遵守した実験計画の立案から実際の取扱まで、科学的のみならず動物福祉に配慮し動物実験の倫理をふまえた適正な動物実験を遂行するために必要な技能の習熟を目指しています。今回、当センターにおいて実施している「動物実験資格」の実際と「技能研修」について習熟して頂き、飼育管理や研究支援など「サル」を用いる動物実験の全てを実体験にて学ぶと同時に対象動物への理解を深める助力となれば幸いです。

皆様のご参加をお待ちしております。

開催日：2024年2月19日（月）：教育訓練、取扱講習

2月20日（火）：生殖工学操作、動物管理

開催場所：滋賀医科大学動物生命科学研究センター

住所：〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

[https://rcals.jp/?page\\_id=](https://rcals.jp/?page_id=)

### 講習会日程

2月19日（月）

開校式・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9：00～9：30

サル教育訓練・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9：30～10：30

資格認定試験・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10：30～12：00

休憩・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12：00～13：00

実習1（ガイダンス）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13：00～13：30

実習2（動物取扱訓練）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13：30～16：00

講習1（実験動物としてのサル取扱）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16：00～16：30

講習/実習終了反省会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16：30～17：00

2月20日(火)

- 実習3 (サル生殖工学操作見学/補助作業) . . . . . 9:00~11:00
  - 講習2 (サル生殖工学概論) . . . . . 11:00~12:00
  - 休憩 . . . . . 12:00~13:00
  - 実習4 (動物管理/取扱) . . . . . 13:00~15:30
  - 講習3 (カニクイザル獣医学的管理) . . . . . 15:30~16:30
  - 閉校式 . . . . . 16:30
- 解散

【当日緊急連絡先】

滋賀医科大学動物生命科学研究センター

TEL : 077-548-2332

